



# Lis Blanc

No.67

学報リスブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号  
TEL 022-372-3254 URL <http://sendai-shirayuri.ac.jp>  
編集/大学広報室

(転用・転載を禁じます)

## 本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 留学体験、グローバル韓国研修報告
- 03 留学生紹介
- 04 学生の活躍
- 05 ボランティア活動
- 06 夢に向かって
- 07 学修支援センター・高校エンカレッジコース
- 08・09 特集・白百合の教育と社会貢献
- 10 退職にあたって・新任あいさつ
- 11・12 お知らせ
- 13 財務報告・寄付金のご報告とお願い
- 14 学生募集要項、編集後記



## 「みことばは人となり、われわれのうちに宿った」(ヨハネ1・14) — 降誕祭に寄せて —

仙台教区司教 平賀 徹夫

神であり人間を照らす光である主イエス・キリストは、わたしたちと同じ人間となりわたしたちと共にいてくださる方となられた——聖書に基づいて教会が信じる降誕祭の大意です。創造主が人間としてお生まれになる程にご自分を低くしてくださったのはなぜか。ほんの少し、聖書から汲んでみましょう。

旧約聖書の『創世記』は、人間は神により神にかたどって創造されたと教えています。教会はこれを神話のように静止的に受けとめることはしません。神によるこの創造こそ、人間の一人ひとりがかげがえのない価値と尊厳を帯びた存在であるという人間観の根拠とするのです。そのような者である人間は、互いを尊敬し大切にしようことを通して、より人間らしい者へと成長していきます。「あなたがたの父(である神)が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい(ルカ6・36)」との教えにつながっていくからです。

憐れみ深い神は、人間が苦しみの中にもがきながら生きるさまを見過ごすことができないお方です。「母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも、わたしがあなたを忘れることは決してない(イザヤ49・15)」と、特に苦しんでいる人間をいつも心にかけている姿が示されます。その究極の現れが「御子によって世が救われるために、神は御子を世に遣わされた(ヨハネ3・17)」というご降誕の出来事となりました。これを

パウロは「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、しもべの身分になり、人間と同じ者になられた(フィリピ2・6-7)」と書き、「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです(2コリント8・9)」と教えています。

度、エンカレッジコースを導入、仙台白百合学園高校では今年度、エンカレッジコースを導入、大学でも学修支援センターがスタートしました。青年がどのような環境や状況にあるとしても、一人ひとり志をもって、かけがえのないその人らしく成長し花を開かせるように進むための具体的な一つの道の提示として高く評価したいと思います。仙台白百合がこれからも青少年の教育というその使命を存分に果たして「人となられた神」の思いを生きる人々を世に輩出する働きを続けられますように、共に祈られるその方からの豊かな祝福をお祈りいたします。

教皇フランシスコは最新の勧告の書『福音の喜び』で、「尊厳ある充実した生を送るには、他者を認め、他者の善を求めることのほかに道はありません(9項)」とし、「いのちは与えることで強められ、孤立と安逸によって衰えます。：他者に命を与えるときにこそ、いのちは成長し、成熟します(10項)」と、人間となられた神に倣って自分を低くし、他者のために自分を与える生き方こそ人間として成長する方法であると教えています。

「いのちは与えることで強められ、孤立と安逸によって衰えます。：他者に命を与えるときにこそ、いのちは成長し、成熟します(10項)」と、人間となられた神に倣って自分を低くし、他者のために自分を与える生き方こそ人間として成長する方法であると教えています。



フィリピン留学を終えて  
グローバル・スタディーズ学科 二年

渡邊久美

私は二月から九月までの七ヶ月間、セントポール大学マニラ校に留学してきました。留学前の英語力と現在の英語力とを比べれば成長したと思えますが、まだまだ勉強が必要なレベルです。留学中には語彙力とスピーキング力やリスニング力を伸ばす事が出来たと思います。多少早いスピードの会話も聞き取れるようになり、自分が話すときは自信をもって発言できるようになりました。しかし、リーディングやライティングやグラマーなどはさらに今後も学んでいかなければならないように思います。発音に関しては、先生が丁寧に直してくれていたのですが、留学前よりは外国人に通じる英語に近づく事が出来たと思います。タガログ語も少しですが理解できるようになりました。フィリピンは現在でも、スペイン統治時代の名残があり、一年生の時に履修していたスペイン語とタガログ語で同じ単語もあったので覚えやすかったです。学部の授業ではフィリピンの歴史を学びましたが、その授業を受けるまで私は過去に日本がフィリピンを統治し、フィリピン人に対してひどい行為があったということとは知りませんでした。そういっ

たことを、フィリピン人の学生に囲まれたなかで日本人一人で学ぶというのは複雑な気持ちでしたが、とても勉強になりました。

フィリピンに留学することを決めてから現地に到着後一週間までは、この留学は自分の人生の中で一番のチャレンジで、帰国後の自分がどうなっているのかは未知の世界で、想像もできませんでした。フィリピンに到着した時、道路で物を売っている子供たちやトラックの荷台に大人数で乗って移動している光景を見て衝撃を受け、不安が二倍になりました。しかし、学校が始まって一週間くらい経過し、友達もできて日々が充実するにつれて不安はすべて消えて、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。寮で生活をした二ヶ月間ではフィリピン人に囲まれた日々を体験し、コンドミニアムでの一人暮らしの五ヶ月間では他大学の学生や多様な国から来た人たちとの出会いがありとても充実したものになりました。フィリピンに留学した理由として、もちろん英語力の向上という目標もありましたが、発展途上の国に住んで自分を試し、成長したいという思いのほうが強かったので、この七ヶ月間フィリピンに滞在したという経験は、今後の人生の糧になるだろうと思っています。家の周りのストリー

トチルドレンを毎日見ながら通学をし、日本人とは違う国民性を持っているフィリピン人との共同生活はとても刺激的で、留学先をフィリピンにして本当に良かったです。現地で親友もできたのでこれからも末永く交流を続けていきたいと思っています。

私は留学前まではとても冷めた性格で、短気で常に心に余裕がありませんでした。ですが帰国後はいくらか忙しくても、いつも落ち着いた状態でした。人々を許す事が出来るようになり、毎日のようにしていた兄弟げんかや親との言い争いも全くしなくなりました。フィリピン人のいつでも笑顔で前向きな姿勢にいつの間にか影響を受け、自分も少なからずそれに近づけたのかもしれないと思っています。自分を良い方向に変えてくれたフィリピンにまた戻りたいです。



### 「異文化体験」(韓国)の報告



撮影・加藤由仁さん(グローバル・スタディーズ学科1年)

九月八日、グローバル・スタディーズ学科の一・二年生二十三名と教員二名は、仙台空港より四泊五日の韓国研修旅行に出発しました。現地では、ソウル市と近郊の世界遺産・民俗村の訪問、大学街・中心街の自由散策などを行いました。

学生が最も真剣な表情をみせたのは、四日目のプログラムです。午前には訪ねた「統一展望台」では、国境となっている川の対岸に北朝鮮の畑や住宅が肉眼で確認できることに驚かされました。展示からは、両国が緊張状態にありながらも、様々な交渉や経済交流が進みつつあることが伝わります。昼食後の研修では、日

私は中国の山西大学大学院から来た範帥(ハン・スイ)です。幼いときからスラムダンクのような日本のアニメが大好きで日本に大変興味を持っていました。高校を卒業した後、大学に入り日本語を専攻しました。

今私は山西大学大学院の二年生です。近い将来、流暢な日本語で話せるようになりたいと思っています。

今回の仙台白百合女子大学への留学をきっかけに、日本社会や日本文化に対する理解を深めて、友達をたくさん作りたいです。

中国と日本の架け橋として自分の力をささげたいと思っています。

中国  
山西大学大学院  
ハンスイ  
範帥



はじめまして！ 私は台湾の開南大学から来た留学生で、陳奕廷と申します。

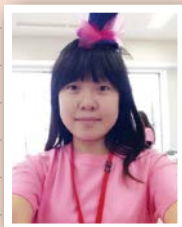
今二十一歳です。趣味は小説を読むことと音楽を聴くことやテレビを見ることです。小さいときから日本のことが好きで、興味を持っていて、大学では応用日本語学を専攻しています。

日本語がもっと上手になりたいし、日本の文化などを詳しく知りたいし、また、日本の友達をたくさん作りたと思って日本に留学に来ました。日本に来たばかりで、まだわからないことがたくさんありますが、この一年間よろしくお願いします。

台湾  
開南大学  
チェンエキテイ  
陳奕廷



中国  
山西大学商務学院  
チョウ アナン  
張亞楠



皆さん、こんにちは！ はじめまして。

私は中国の山西大学商務学院の日本語科の四年生の張亞楠と申します。今年で二十四歳になります。

私は静かで穏やかな女の子です。興味のあることは、旅行と音楽と英語です。専攻は日本語なので滞在中は日本語が身につくようになればいいと思います。たくさんの友達を作れば嬉しいです。

皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

日本は初めてなのでまだ何も分かりませんが、よろしくお願いします。早く日本語を覚えて、皆さんと話が出るようになりたいです。

中国  
山西大学商務学院  
チョウ リキン  
張利琴



私は中国の山西大学商務学院から来た張利琴(チョウ・リキン)です。留学中の一年間で日本語能力試験N1に合格したいと思っています。それに日本語らしい日本語を使えるようになりたいです。私はとても元気な性格です。たくさんの友人を作りたいです。皆さん、よろしくお願いします。



本に長期滞在経験をもつ講師を招き、日韓の文化の違いや、それぞれの良さ、異文化体験の重要性などを学習。どの学生も、ユーモアあふれるお二人のお話を熱心に聞き入っていました。

毎日一万歩以上あるいて活動し、現地の人々と交流し、食生活に親しみ、名残惜しい気持ちを抱えつつ帰国。「百聞は一見にしかず」を実感する研修になりました。

(熊谷健二・高橋早苗)

## 「野球観戦をしながら彼氏に食べてもらいたいお弁当」制作

健康栄養学科 氏家 幸子

キ

「野球観戦をしながら彼氏に食べてもらいたいお弁当」を制作することになり、白百合祭実行委員会と健康栄養学科（氏家・山城ゼミ）の学生がお弁当のプロデュースを担当することになりました。

九月十九日（金）の北海道日本ハムファイターズ戦で、仙台白百合女子大学と宮城学院女子大学とで同時に二百個のお弁当を販売するという企画です。どんなお弁当にしたら、お客様に喜んでいただけるかしら？白百合らしいお弁当になるかしら？試合を見ながら食べるにできないかしら？と考え、いろいろとアイデアを出し合って夏休み中に試作を重ね、



代表の学生が球団やお弁当制作の担当者との打ち合わせに臨み、パッケージやリーフレットにも工夫を凝らして作成しました。名付けて「華の白百合弁」あなたの心にD.O.ストライク！」です。

この企画はTBSのテレビニュースやYouTubeなどでも話題になり、当日は大勢のお客様が買いにいらっしやいました。販売スピードでは宮城学院女子大学に及ばなかったものの大盛況で試合開始の一時前に完売することができました。食べ終わったらお客様がわざわざ「とてもうまかった！ご馳走様！」と言いに来られるなど、皆様にご満足いただけるお弁当を販売することができ、試合も楽々が1-0と勝利することができて本当によかったです。

## ▶ 第49回白百合祭を終えて



白百合祭実行委員会委員長 今野 智都

十月二十五日・二十六日に第四十九回白百合祭が開催されました。爽やかな秋晴れの下、両日ともにたくさんのお客様にご来場いただき大盛況のうちに幕を閉じることができました。今年度の白百合祭は先輩方から受け継いだ伝統を重んじながらも、新たな試みとして学内装飾やイメージキャラクターの宣伝に力を注ぎました。そして、毎年恒例のもちまきや新企画である実行委員スタンブラリー、野村周平さんによるトークショーを通じて本学の学生とお客様が共に楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと感じております。

白百合祭を運営する上で幾度も委員長という重圧に押し潰されそうになって得た仲間と共に励まし合い一つ一つのものを創り上げたという達成感が今後の私を支えてくれる心の糧になると信じています。最後ではございますが、白百合祭にご尽力いただきました企業の皆さまや地域の皆さま、白百合祭関係者の皆さまにこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。



## ▶ 元気の出る朝食講習会報告

健康栄養学科1年 後藤 陽子

私

は今、朝食が一日の生活の中心で一番の楽しみです。朝食を作って食べるために、毎朝早起きをしています。そのきっかけは、元気の出る朝食講習会への参加でした。フルーツパンケーキを作る、と聞いて、食べる事・作ることに大変興味がある私はすぐに飛びつきました。最初に衝撃を受けたのは、先輩のデモンストレーションで、キッチンペーパーに油をしみこませて、フライパンに広げた事です。油の摂取を最低限に抑える事が出来ると思えました。メイプルシ



ロップとヨーグルトを混ぜてのソース作りは、これで本当に甘いのだろうか、と疑問に感じていました。しかし、ほどよい酸味と甘さがあり、フルーツともよく合い、朝食にたいへん適しているなと感じました。講習会後、私はさらに料理が好きになり、食に対しての関心が強まりました。今回この講習で得られた情報や勉強させて頂いた事を普段の食生活でも活かしながら、これからも元気の出る朝食づくりを考えていきたいです。



Report ▶ 学習支援ボランティア

ボランティア活動

健康栄養学科 4年 佐藤 千夏・海野 椿

**私** 私たちは大学二年生の夏から、仙台市沿岸部の被災した小中学生を対象とした学習支援ボランティアをしていました。子どもたちの宿題や自主学習の勉強を見たり、学習時間以外には校外で遊んだり、学校での出来事などについてお話しするボランティアです。その会で、ピザフェスタを開催することになり、講師の菊地晃先生といっしょに活動する中、食に関係するボランティアの楽しさを知りました。さらにクリスマス会を開催した際には、同じゼミの友人たちにも参加してもらって、ケーキのデコレーションや、クリスマス会当日に子どもたちにデコレーションを楽しんでもらって、手作りのクリスマスケーキを完成させました。そのご縁で、二〇一三年十二月には菊地晃先生をお招きしてゼミの学生対象のパン教室を開催し、あんパンやフランスパンの作り方を教わりました。さらにその学びを生かして、次は私

ちが企画し講師となって、学習支援ボランティアで出会った子どもたちとその保護者を対象に、パン教室を二回開催しました。その会ではキャラクターパンやツナカツシユなどを作り、参加した子どもたちとともに食体験を深めました。みんなで作っておいしくいただく調理実習は大変に好評で、私たち自身も学ぶことが多かったため、卒業しても続いてほしいという思いから、三年生にも参加を促し、ちらしずし作りのボランティアを一緒に行いました。ボランティアの輪が広がりがつなげられているよううれしかったです。これまでの活動を行う中で、多くの方に出会い、支えていただき、たくさんのご経験することができました。私たちはこの経験を生かし、今後も様々な活動に取り組んでいきたいと思うと同時に、このボランティア活動が次の学年の方たちの手によって続いていくことを願っています。

▶ 秋の交通安全運動

人間発達学科 4年 菊池 瞳

**こ** んにちは。リスブラン・トーンチャイム・ハーモニーです。私たちは、九月二十一日(日)に泉区役所で行われた「秋の交通安全運動」に参加してきました。出発式では、四季より「秋」という曲と「花は咲く」の二曲演奏させて頂きました。演奏は、野外で行ったため、風や太陽の光の反射など心配はありましたが、楽しく終えることができました。初めてトーンチャイムの演奏を聴く方も多く「良かったよ」など嬉しい言葉も頂きました。出発式の後に、ボランティア活動を行いました。ボランティア活動では、看板や旗などを持ち道路沿いに立って、交通安全を呼びかけました。炎天下の中でのボ

ランティア活動でしたが、無事に終えることができました。



▶ eco なトラックの日フェア

人間発達学科 2年 尾形 美咲

**今** 回「eco なトラックの日フェア」のダンス出演をさせて頂いて、とても良い経験となりました。たくさんのお客さんの前で踊ることはあまり無い経験だったので、緊張しましたが楽しく踊ることができました。また、他の出演者の方々と関わりやすさやステージ発表は私たちにとって、良い刺激となりました。これからもこのような素晴らしいイベントに出演させて頂けるように、日々練習していきたいと思えます。ありがとうございました。



▶ 高齢者福祉施設訪問

グローバル・スタディーズ学科 1年 梨本 彩良

**私** たち聖歌隊は毎週月、水、金曜日の放課後に講堂で練習をしています。主な活動は入学式や卒業式、白百合祭、クリスマスミスなど学校行事で校歌や聖歌、合唱曲を歌っています。今回学校に隣接している高齢者福祉複合施設「カリタスの丘」のケアハウス「それいゆ」の敬老会でボランティアとして歌を歌わせていただきました。敬老会では、「風になる」、「COSMOS」、「いつでも誰かが」の三曲を披露しました。敬老の日という事で、高齢者の方々にも楽しんでいただけるといいな曲を考えたのは難しく、また、練習時間が短かったので四苦八苦していました。それで



も部員一同、精一杯力を発揮し、本番は無事に成功する事ができました。私達にとってもとても良い経験となりました。

## 白百合で学んで

人間発達学科 二年 鈴木 菜穂

私が白百合学園に在籍して、十六年になります。人生の四分の三以上をこの学園で過ごして学んだことは、感謝の心です。感謝とは、一見ありふれた言葉と思われがちですが、この言葉の本当の意味はもっと奥深いものだと思いました。

私たちが日常生活で当たり前だと思いがちな事柄は、実は当たり前のことではありません。日々の生活すべてに感謝するというのは、欲しいものが全て手に入れることが出来る現代の日本において、非常に難しいことです。私たちが大学に在籍しながら学びたいことを学んでいることも、忘れがちですが感謝しなくてはならないことではないでしょうか。

今、私は小学校教員になるために勉強しており、白百合学園で培った感謝の心を児童に教えることが出来る小学校教員になりたいと思っています。小学校教員に向けての勉強は大変ですが、自分の将来に向けて努力していきたいと思っています。



## 一人ひとりの心に向き合うために

心理福祉学科 一年 戸川 安奈

私は将来、精神保健福祉士になりたいと考えています。きっかけとなったものは、様々な日々のストレスから精神疾患を患ったひとりの女性が、精神保健福祉士と共に社会復帰を目指し、努力していくエピソードが綴られた新聞記事でした。病氣と闘い、試行錯誤を重ねながらも人生の中に少しづつ希望を見つけていく女性と、その女性を支える精神保健福祉士の姿に深く感銘を受けました。将来はこの職に就き、心の病氣などによって一度社会を離れた人々の、新たな再スタートをきるきっかけとなるものを見つけていく仕事をしていきたいと考えてるようになりました。一人ひとりの心の問題と向き合い、解決へと導く事は決して容易ではありませんが、これからの大学生活で様々な経験を重ね日々視野を広げつつ、自身が出来る支援の形を存分に研究していきたいと思っています。



## 夢に向かって

健康栄養学科 四年 半澤 夕菜

私は、「管理栄養士になりたい」ではなく、「栄養学を深く学びたい」という目的で、この学科を選択しました。陸上競技部に所属していた中学・高校時代に、食事管理で身体を変えられることに気付いたからです。

実際のところ、栄養学以外の授業が想像以上に多く、管理栄養士という職業に奥深さを感じました。私のように、入学してから管理栄養士の活躍の場を知った人も多いのではないのでしょうか。私も最初は、管理栄養士として働く自分をイメージすることができませんでした。しかし、臨地実習やボランティア活動を体験していくうちに、高齢者に「生きがい」としてもらえようという食事を提供したい、と思うようになりました。

今後、どのような将来が待っているかわかりませんが、大学生活の中で得ることができた、自分の夢を大切に、歩き続けたいです。



右から2番目が本人

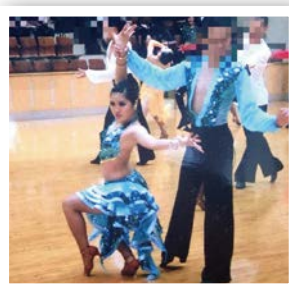
## 夢を日本へ海外へ

グローバル・スタディーズ学科 二年 菅原 礼央

私は将来、プロボールルームダンサーになるという夢があります。

幼い頃から続けてきたダンスは、私の人生の中で欠かせないものになっています。私が中学三年生の時、ドイツに短期留学して、レッスンを受けたら、海外選手のレベルの高い演技を見て、衝撃を受け、良い刺激になったのを鮮明に覚えています。初めはお稽古事のひとつでしたが、いつの間にか海外でダンスを学びたい、そしてプロボールルームダンサーになりたいという夢ができました。世界共通競技であるボールルームダンスは日本でもっと普及されるべきだと思います。だからこそ、自分自身が海外で学び、日本でボールルームダンスを広められる人になりたいと考えています。

また海外でダンスを学ぶ上で語学が必要ということに気づき、今現在、大学で英語を中心に他国の歴史や文化を学んでいます。私は日常生活を全力で送ることで夢に向かっていけると考えます。これからも夢を叶えるために私は日々精進していきたいと思っています。



## 学修支援センターより

センター長 宇野忍・スタッフ 山口 普子

学修支援センターが二号館一階に開所してから半年が経とうとしています。

学習室1でグループ学習を行ったり、PCを利用して学習室2でレポートを作成したり、DKルームでランチをしたりする学生が徐々に増えてきました。

教員による「なんでも相談窓口」を開設し、「ワールド・クッキング」、「ふしぎ探険隊」などの企画を通して、「ワールド・クッキング」、「ふしぎ探険隊」などの企画を通して、「ワールド・クッキング」は料理を通して外国語でコミュニケーションしてみようという試みで、英語で作る方を学んだ後、留学生さんたちと餃子や柏餅を作りました。「ふしぎ探険隊」は身の回りのふしぎを探険し調べ、探険の仕方を学ぶという企画で、ペットボトル・ロケットをつくって発射実験を行ったり、身近なスーパーのチラシから食品の輸入先の地図を作成したり、といった探険をしています。

四月と九月には履修相談窓口も期間限定で開設、ピアサポーターによる学生企画も開催できて、在校生からは好評でした。現在、学生スタッフとしてピアサポーター十七名の学生が登録し、大学生活や学びを楽しくするには何が必要か、日々アイデアを出してくれています。

誰に聞こう?どこに行こう?と迷ったときや、こんなことやってみよう!と誰かに協力を求めたいとき、などなど、いつでも気軽にふらりと立ち寄れる、そんな大学の心のオアシスをセンターは目指します。そのためにはみなさんにまず、二号館一階へ足を運んでもらうことが大切! スタッフ一同みなさんの来室をお待ちしております。



学生企画  
ハロウィン&留学生ウェルカムパーティー



企画 ふしぎ探険隊  
「スーパーのチラシで食品輸入地図をつくらう!」



企画 ワールド・クッキング「餃子をつくらう」

## 1人ひとりに寄り添うために

仙台白百合学園高等学校に、

通信制課程エンカレッジコース、スタート―

仙台白百合学園高等学校 教頭 阿部 和彦

通信制課程エンカレッジコースが開設されて半年が経とうとしています。現在二十九人の生徒が在籍しています。中学校時代、ほとんど教室に入れなかった生徒もいます。様々な事情を抱え他の高校から転入してきた生徒や本校全日制から転籍してきた生徒たちも共に勉強しています。

子供たちは、自分の足で、自分の「今」を歩み始める。その「今」の延長上に、子供たちの未来がある。

辛い思いを経験した人ほど、支えてくれた人を敏感に感じ、今度は他者を支える優しさを持つようになる。つまりいた人ほど、手を貸そうとする人になる。今度は人を助け起こす強さを備えるようになる。このことを信じて、生徒の成長に関わっていきたくて考えています。エンカレッジコースはスタートしたばかりですが、スタッフ一同、カトリック校としての通信制課程を深めるために、精一杯、努力していきます。



## 仙台白百合学園

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山一丁目2番1 (URL: <http://www.sendaishirayuri.net/>)

仙台白百合学園 幼稚園	( <a href="http://www.ssg-k.net/kinder/web/">http://www.ssg-k.net/kinder/web/</a> )	TEL 022-777-6777	FAX 022-777-6778
仙台白百合学園 小学校	( <a href="http://sses-sub.net/web/">http://sses-sub.net/web/</a> )	TEL 022-777-3777	FAX 022-777-3778
仙台白百合学園 中学・高等学校	( <a href="http://sh.sendaishirayuri.net/">http://sh.sendaishirayuri.net/</a> )	TEL 022-777-5777	FAX 022-777-3555
エンカレッジコース [広域・単位制・通信制課程]		TEL 022-777-6625	FAX 022-777-6001



本学は、イエス・キリストの愛の精神、すなわち、「ひとりひとりの人間を、かけがえない存在として大切にしながら、それぞれに与えられた使命を成し遂げる力を培うこと」を建学の精神としている。また、設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の、「社会から忘れられがちな人々への奉仕を優先する」という創設の精神を、「人間の理解と援助」「社会変化への積極的対応」として学び実践することを教育理念としている。より具体的に言えば、本学が社会に送り出そうとしている卒業生像は、第一に、弱い立場の人への思いやりと愛情を持ち、人間の尊厳と人権を尊重する人間である。第二に、命を慈しむ心を持ち、家族の価値を重視し、国境を越えた人類愛をもって他者に奉仕できる人間である。第三に、グローバル社会の中で、よりよい平和な世界を他者とともに築いていくために、広い視野を持ち、偏見と差別意識を持たず、異質な他者とともに生きることができる人間である。本学人間学部は、四学科で構成されており、人間発達学科では保育・教育分野に、心理福祉学科では福祉と心理学分野に、健康栄養学科では栄養の分野に、そして、グローバル・スタディーズ学科では国際社会に関わる分野に、それぞれ高度な専門知識と技能を身につけた優秀な人材を毎年輩出している。本学は、こうした分野において社会への貢献を行っているが、しかし、大学でどのような専門性を身につけようとして、社会に出てどのような職業に就こうと、最も大事なことは、それらの専門的知識や技能をどう使うかである。使い方によつては、社会に幸福をもたらすことにも、逆に、社会を不幸に導くものともなりうる。その方向性を示すのが、上記の建学の精神であり教育理念であり、卒業生像である。そこに示された視点や価値観を持った社会人を一人でも多く輩出することが、本学の社会に対する最も基本的かつ重要な貢献であると考えている。

かけがえない存在として大切にしながら、それぞれに与えられた使命を成し遂げる力を培うこと」を建学の精神としている。また、設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の、「社会から忘れられがちな人々への奉仕を優先する」という創設の精神を、「人間の理解と援助」「社会変化への積極的対応」として学び実践することを教育理念としている。より具体的に言えば、本学が社会に送り出そうとしている卒業生像は、第一に、弱い立場の人への思いやりと愛情を持ち、人間の尊厳と人権を尊重する人間である。第二に、命を慈しむ心を持ち、家族の価値を重視し、国境を越えた人類愛をもって他者に奉仕できる人間である。第三に、グローバル社会の中で、よりよい平和な世界を他者とともに築いていくために、広い視野を持ち、偏見と差別意識を持たず、異質な他者とともに生きることができる人間である。本学人間学部は、四学科で構成されており、人間発達学科では保育・教育分野に、心理福祉学科では福祉と心理学分野に、健康栄養学科では栄養の分野に、そして、グローバル・スタディーズ学科では国際社会に関わる分野に、それぞれ高度な専門知識と技能を身につけた優秀な人材を毎年輩出している。本学は、こうした分野において社会への貢献を行っているが、しかし、大学でどのような専門性を身につけようとして、社会に出てどのような職業に就こうと、最も大事なことは、それらの専門的知識や技能をどう使うかである。使い方によつては、社会に幸福をもたらすことにも、逆に、社会を不幸に導くものともなりうる。その方向性を示すのが、上記の建学の精神であり教育理念であり、卒業生像である。そこに示された視点や価値観を持った社会人を一人でも多く輩出することが、本学の社会に対する最も基本的かつ重要な貢献であると考えている。



## 白百合の教育と社会貢献

一人ひとりに寄り添い共に歩む 学びの姿

仙台白百合学園高等学校 教頭 阿部和彦

- 今年度、本校は、「通信制課程」を開設した。全日制課程という教育制度に適應できない生徒が増加する中で、そのような生徒たちも通信制という柔軟な教育システムを用いて高校生活と高校卒業を支援、一人ひとりに寄り添い今と将来をサポートするのが目的である。貧しく教育を受けることが困難な人々へ奉仕することから始まったシャルトル聖パウロ修道女会の精神が土台になっている。学校不適應の生徒を切り捨てることなく教育することは、カトリック学校にとつて建学の精神の具現化であり、社会からの期待に応えることにもなる。この原点に帰って、全日制課程に通信制課程を加えることで様々な層の生徒を迎え入れ、一人ひとりの「学びたいという意欲」に応え、学園の教育の可能性を広げていきたい。
- 仙台白百合学園の通信制課程を「エンカレッジコース」と名付けた。子供たちを「勇気づける、元気づける」(encourage)という想いからである。エンカレッジコースの特色は、以下のとおりである。
- ◆ ミッションスクールとしての通信制課程
  - ◆ 女子だけの落ち着いた教育環境
  - ◆ 土曜日のスクーリングと、家庭学習によるレポート学習が中心
- ◆ 平日は、自由登校とし、英検・P検などの資格取得講座や、ボランティア、パイプオルガン、パッチワーク、自然体験などの体験講座、受験対策講座などを受けることができる。
- ◆ 進学をサポートし、仙台白百合女子大学や白百合女子大学(東京)への推薦の道も開かれている。
- ◆ 短期留学や長期留学もサポートする。
- エンカレッジコースの土台になるのは、ミッションスクールの精神である。一人ひとりに寄り添い、神様から授けられた特別なタレント(才能)を輝かせたい。神様の下につながれたブドウの木の枝のように、人とつながり支え合う存在になつてほしい。エンカレッジコースのカリキュラムには「宗教」という科目がある。また、クリスマス会、修養会などの行事もある。人の役に立つ喜びを感じるボランティア体験講座もある。こうした学園生活を通し、高校卒業の資格を得るだけでなく、人を思いやる心、人の役に立つ心を育て社会に巣立ってほしいと願っている。



ヤマト屋書店仙台三越店 吉田 香織さん  
(人間発達学科 二〇〇三年度卒業生)

——吉田さんは最初からこのお仕事をされてきたのでしょうか。

自分は本が好きだったので、卒業後に石巻市で三年弱勤務して、それから仙台へ、そして人事異動で仙台三越店に勤務となりました。

——仙台白百合女子大学での学生生活は？

人間の心や教育について学んだ、けっこう濃い四年間でした。仙台白百合女子大学に入って、すごく良かったと今思っています。牛渡先生の模擬授業を受けて「あ、これはもう、入学したい」と思いました。「キリスト教学」ではS.和田美稚子先生でした。「宗教と音楽」でグレゴリオ聖歌を初めて聴いて衝撃でした。しばらくハマっていました。図書館で教会建築の本をみたりしていました。私にとって理想の大学でした。すごく楽しかったんです。あの四年間をもう一度やってみたいなと思います。卒業後も一緒に食事をしたり買い物をしたりする親しい友だちができました。

——大震災の時は？

仙台八幡店におりました。震災後は、お子様たちがたいへん不安だったようで、絵本をお求めに多くの方がいらっしやいました。震災後の店内ではお子様の姿が多かったですね。

——仙台白百合女子大学での学びが今のお仕事に生かされていると思うことは？

お客様のなかで(詳細はお話しできませんが)何か抱えている方だと感じることがあります。身近な方、ご家族の方のことで悩んでいる方が多くいらっしやるのだろうと思います。そのような理解の上で接客が徐々にできるようになってきております。

——ご自分のお仕事がどのように社会への貢献につながっていると思われませんか？

お客様ひとり一人に接することを通して、自分の仕事为社会とつながっていると考えます。

インターネット上の書店は、実物を見なくても買えますが、贈り物には向かないかもしれません。淘汰されていく時代ですから、棲み分けを考えねばならないと思います。絵本も、しかけ絵本のような楽しさは電子書籍では無理だと思えます。クリスマス時期の絵本の需要はすごいですね。

本の魅力を知っております者として、直接、手に取っていただいで、本を読む楽しさを多くの方々に味わって喜んでいただくことが私にとっての社会貢献と思っております。



## 社会で活躍する卒業生

特別養護老人ホームみやざき

鈴木 美希子さん  
(健康栄養学科 二〇〇五年度卒業生)

——今のお仕事に就くきっかけは？

地元での就職先を探している時に、現在の施設の募集がありました。それまで、高齢者施設の委託栄養士として勤務した経験が役に立ちました。

——仙台白百合女子大学での学生生活の思い出は？

ゼミや卒論などでは、興味のある分野に関して取り組むことが出来ました。現状把握を行い、そして調査を行うことの大切さを学び、様々な面から「栄養」について考えることが出来ました。また、学生会にも所属しており、学科の垣根を越えてたくさんのお会いがありました。その当時、お世話になりました教職員の皆様には感謝しております。サークル活動では他校の方との交流もあり、自身の視野を広げることが出来たと感じています。

——本学での学びが今のお仕事に生かされていると思う点はありますか？

食事介助を含めた高齢者の介護について、福祉学科の方と一緒に学ぶことが出来たことは、介護の現場を知るよい機会となりました。

また、学外での臨地実習は、実際の現場を見せていただくことで勉強になるこ

とが多くありました。その時にご指導いただいた先輩栄養士の皆さんとは現在も交流の機会があり、素晴らしい出会いの場を与えていただいたと感じています。

——今のお仕事がどのように社会貢献につながっていると思いますか？

地域の栄養士の事業を通じて、住民の方に直接、「健康と食」についてお伝えできることが社会貢献のひとつだと感じています。

また、ご利用者の方やその家族とお話していただける機会を通じて、食事に関することをお伝えすることも社会貢献につながっていると思います。

——最後に後輩達へ一言。

栄養士の知識を活かせる場はたくさんあります。多くのことを学び、吸収出来る、今を大切にしてください。今、頑張ったことは、必ず将来の強みになります。



## 白百合での感謝の四半世紀

人間発達学科 大道直人

一九九〇年四月に仙台白百合短期大学に奉職して以来、停年を迎える来年三月で白百合勤続二十五年になる。実に四半世紀に及ぶ長きに亘って大変にお世話になった。筆舌に尽くせない感謝が胸に溢れるのを覚える。

へブライ大学で研究生生活をしていた時に知り合った故村山巖氏（当時東北学院大学教授）がカトリックであった縁で白百合をお勧め頂き、情報処理教育担当として採用して頂いたことが昨日のこのように懐かしく思い出される。その時面接して頂いたのが牛渡現学長であり、和田第四代短期大学学長の時であった。専門は全く違う理論化学であるが、当時、日本全体が情報処理教育を始めたばかりで、一般教育の情報処理教育は情報工学系の専門家よりはコンピュータを研究で活用している領域の研究の方が文



短大時代の1号館と中庭の風景

部省主催の研究集会でも圧倒的に多かった。短大で勤め始めた当初は八年間のイスラエル滞在から帰って間も



阿野教授退官記念の一コマ。  
後列左から石出前学長、和田元学長、筆者、高橋教授、前列左から片岡当時学長、阿野教授、牛渡現学長



短大コンピュータ室での1コマ



カトリック研究所開所式にて

なかったこともあり何もかもが物珍しかった。今と違って八乙女から本数の少ないバスに揺られ田圃の中を通つての通勤で、キジや狸に出会うこともしばしばの環境がとても新鮮であったし、カトリックというミッションスクール独特の雰囲気はスール達の服装からミサの非日常的な体験まで、全く未知との遭遇の連続であった。何にもまして女子学生だけのクラスでの授業は慣れるのに数年掛かった。

そんな中で取り組ませて頂いた仕事もほとんどが初体験のことばかりであった。そもそも情報処理教育担当を仰せ付かったものの、コンピュータ演習室は勿論のこと、サーバーもパソコンも全く無いという状況からのスタートで、全てゼロからの手探り手作りの連続であった。東北大学に置かれた東北学術研究インターネットコミュニティ（TOPIC）との間にモデムでインターネット回線が開通したときの喜びは今

でも忘れられない。一九九六年に大学が来た時にはコンピュータ室は三教室になり、システム管理室もシステム委員会も整備することが出来た。東京の白百合女子大学との間に山内教授（現白百合女子大学学長）らの協力の下、姉妹大学間ネットワークを構築し、遠隔授業を実施した体験なども忘れたい思い出である。

短大時代は入試事務処理にコンピュータを導入したり、一般教育課程主任を仰せ付かったり、カトリック研究所の設立にも関わらせて頂いた。四大になってからは教務部長、人間発達学科長、人間発達研究センター長、情報システム管理室長などを勤めさせて頂いた。行き先を知らずにカナンの地に出で立ったアブラハムにも似て、冒険の連続の四半世紀を楽しく過ごさせて頂いたのは、やはりカトリック大学という信仰に根ざした大学故と感謝に堪えない思いである。

## 新任あいさつ

健康栄養学科 菅原詩緒理

二〇一四年七月から臨床栄養学分野の専任講師として着任致しました。これまでは、古都・奈良にて、鹿とともに奈良公園を毎日横断し、若草山や東大寺を眺め、大学院生活を送り、その後、助教として働いておりました。この度、仙台白百合女子大学の教員という素晴らしい縁を頂きまして、故郷の東北に戻ることが出来ました。未だ、関西と東北の地域性の違いに戸惑うこともありませんが、関西で学んだことを生かし、本学の管理栄養士養成に貢献したいと存じます。今の目標は、本学の特性に慣れること、そして本学の良さをさらに伸ばすことでもあります。至らない点が多々ございますが、ご指導のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 泉マルシェ報告

9月20日(土)、泉中央のペDESTリアンデッキで行われた「泉マルシェ」にて大学と仙台白百合学園の広報活動を行いました。

当日は、仙台白百合学園の教員と本学の大学広報委員、学生スタッフが、アンケートやパンフレットを来場者に配布し広報活動を行いました。本学のブースには、一般の方々はもちろんのこと卒業生や在学中の学生さんも大勢お出でいただきました。白百合グッズやアンケート用紙をお配りする際には、白百合の印象や在学中の思い出なども聞かれ、和やかな雰囲気の中で無事活動を終えることができました。



## インカレ通信

仙台白百合女子大学  
「自分で創るテーマのある旅」 報告会開催しました

7月9日(水) 仙台白百合女子大学にて「自分で創るテーマのある旅」の報告会を開催しました。

当日は、4年生の一ノ瀬麻衣さん(健康栄養学科)から「いまいちばんいい京都～水が魅せる京文化」と題してパワーポイント・ムービー版にて報告をいただき参加者に多くの感動を与えました。

一ノ瀬さんからは、当日参加した学生さんに「大学生協募集企画＝自分で創るテーマのある旅」への応募促進もアピールされました。参加したグローバル・スタディーズ学科の1年生からは「是非この募集企画に応募します」との表明もありました。



応募した時のイメージポスター



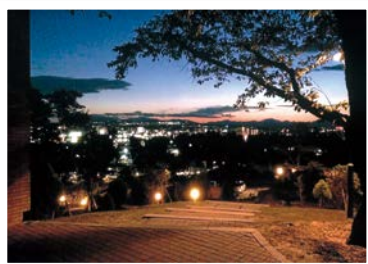
報告する一ノ瀬麻衣さん

一ノ瀬麻衣さんの報告文は以下から見る您可以通过

[http://www.icmiyagi.u-coop.or.jp/tour\\_exp/report/](http://www.icmiyagi.u-coop.or.jp/tour_exp/report/)

(大学生協みやぎインカレ 専務理事 青柳範明)

## 2014年度 フォトコンテスト 受賞作品



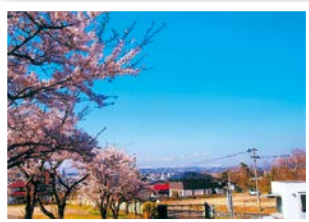
銀賞  
佐藤 杏奈 「夕暮れの階段」



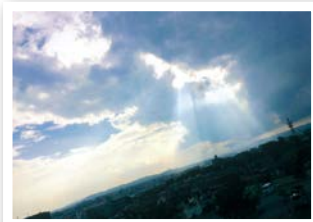
金賞  
棟方 智美 「台風が去って.....」



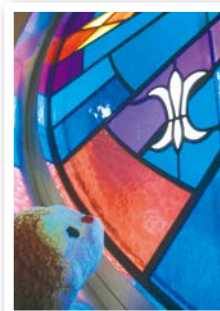
銅賞  
上條 詩乃 「秋の気配」



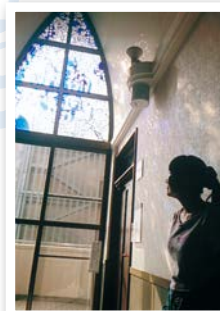
同窓会金賞  
日野 麻理 「Blossoms Flowers」



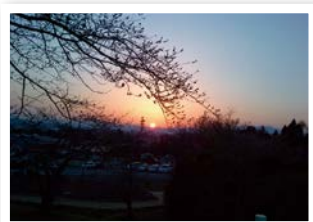
近宣賞  
鈴木 智子 「信じて行けば」



ハリウ賞  
上條 詩乃 「祈り」



同窓会銀賞  
浅岡 京子 「光の中で」



DNP賞  
宇野 忍 「夕景」

仙台白百合女子大学同窓会、(株)近宣様、ハリウコミュニケーションズ(株)様、(株)DNP様より、御協賛いただきました。ありがとうございました。

## 2014（平成26）年度 後期公開講座日程

		サテライト（市民活動サポートセンター）	学内（オンキャンパス講座）
9月	27日（土）		●加藤美紀「生きる意味の教育」① 13:30-15:00
10月	4日（土）	●山口榮一「親子で楽しむ『算数折り紙図形パズル』」 15:00-16:30	●加藤美紀「生きる意味の教育」② 13:30-15:00
11月	1日（土）	●中熊靖「激変する制度改革の下での福祉事業経営」 ① 13:00-14:30 ② 15:00-16:30	
	8日（土）	●中熊靖「激変する制度改革の下での福祉事業経営」 ③ 13:00-14:30 ④ 15:00-16:30	
	15日（土）	●中熊靖「激変する制度改革の下での福祉事業経営」 ⑤ 13:00-14:30 ●アンソニー・スミス「シネマ・イングリッシュ『若草物語』」 ① 15:00-16:30	
	22日（土）	●アンソニー・スミス「シネマ・イングリッシュ『若草物語』」 ② 13:00-14:30 ③ 15:00-16:30	
	29日（土）	●アンソニー・スミス「シネマ・イングリッシュ『若草物語』」 ④ 13:00-14:30 ⑤ 15:00-16:30	
1月	10日（土）		●岩田靖夫「哲学入門」① 13:00-15:00 ●大本 泉「作家は何を食べてきたのか」① 10:30-12:00
	17日（土）		●岩田靖夫「哲学入門」② 13:00-15:00
	24日（土）		●岩田靖夫「哲学入門」③ 13:00-15:00 ●大本 泉「作家は何を食べてきたのか」② 10:30-12:00
	31日（土）		●岩田靖夫「哲学入門」④ 13:00-15:00 ●大迫章史「戦争と教育～戦争は教育をどう変えるのか？～」① 15:30-17:00
2月	7日（土）		●岩田靖夫「哲学入門」⑤ 13:00-15:00 ●大迫章史「戦争と教育～戦争は教育をどう変えるのか？～」② 15:30-17:00
	14日（土）		●大迫章史「戦争と教育～戦争は教育をどう変えるのか？～」③ 15:30-17:00

## 仙台白百合女子大学 2014年度クリスマスの集い



クリスマスを迎え、世界の人々とともに、友人とともに、  
世界の人々の幸福のために、友人の幸福のために一緒にお祈りしましょう。  
『初めに言<sup>ことば</sup>があった。言は神と共にあった。万物は言によって成った。  
成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。  
言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている』  
(ヨハネによる福音書の冒頭)

日時 2014年12月19日（金） 10:00～15:30

会場 本学講堂

当日のプログラム

- |             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 10:00～11:30 | クリスマス・ミサ<br>司式：ラトゥール神父（ドミニコ会司祭）  |
| 13:00～14:00 | クリスマスコンサート<br>ジョン・ルーカス（ゴスペル、その他） |
| 14:30～15:30 | クリスマス会（本学学生のみ）                   |

参加費無料。クリスマス・ミサ&コンサートに参加ご希望の方は、下記までお申し込みください。（本学学生は申し込み不要）

お申し込み・お問い合わせ先：仙台白百合女子大学 大学広報室

〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号

Tel. 022-374-4475（直通） FAX. 022-374-5082 E-mail: koho@sendai-shirayuri.ac.jp

資金収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位 円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	1,243,284,000	人件費支出	1,015,325,525
手数料収入	21,605,700	教育研究経費支出	226,940,824
寄付金収入	21,220,000	管理経費支出	92,775,610
補助金収入	202,616,945	借入金等利息支出	28,462,020
国庫補助金収入	199,282,000	借入金等返済支出	157,760,000
地方公共団体補助金収入	3,334,945	施設関係支出	12,054,238
資産運用収入	1,856,894	設備関係支出	70,707,608
資産売却収入	0	資産運用支出	0
事業収入	5,850,000	その他の支出	71,506,410
雑収入	44,118,616	資金支出調整勘定	△ 54,075,036
借入金等収入	0	次年度繰越支払資金	414,440,073
前受金収入	210,240,000		
その他の収入	77,291,110		
資金収入調整勘定	△ 250,855,466		
前年度繰越支払資金	458,669,473		
収入の部 合計	2,035,897,272	支出の部 合計	2,035,897,272

消費収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位 円)

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金	1,243,284,000	人件費	1,012,115,213
手数料	21,605,700	教育研究経費	433,963,386
寄付金	21,406,605	管理経費	119,035,407
補助金	202,616,945	借入金等利息	28,462,020
国庫補助金	199,282,000	資産処分差額	1
地方公共団体補助金	3,334,945	徴収不能額	0
資産運用収入	1,856,894	消費支出の部 合計	1,593,576,027
資産売却差額	0	当年度消費支出超過額	231,140,169
事業収入	5,850,000	前年度繰越消費支出超過額	3,348,290,171
雑収入	44,118,616	基本金取崩額	0
帰属収入 合計	1,540,738,760	翌年度繰越消費支出超過額	3,579,430,340
基本金組入額 合計	△ 178,302,902		
消費収入の部 合計	1,362,435,858		

貸借対照表

平成26年3月31日 (単位 円)

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	5,082,045,496	固定負債	2,008,703,167
有形固定資産	4,260,833,926	流動負債	440,575,742
その他固定資産	821,211,570	負債の部 合計	2,449,278,909
流動資産	488,787,184	基本金の部 合計	6,700,984,111
		消費収支差額の部 合計	△ 3,579,430,340
資産の部 合計	5,570,832,680	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部 合計	5,570,832,680

寄付金応募状況のご報告とお願い

2009(平成21)年7月から3年間の予定で始まりました本学の寄付金募集は、趣意をご理解くださる皆様方により、一昨年7月からの第Ⅱ期募集後、今日までたくさんのご支援をいただいて参りました。一同、心より御礼申し上げます。

ご賛同くださる皆様方より賜りました寄付金は、震災後の校舎修復費用および被災学生の授業料免除原資の一部等に充当させていただいております。

なお、以下に2013(平成25)年10月から2014(平成26)年9月までの応募状況をご報告いたします。今後ともどうぞよろしくご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

応募区分	件 数	金 額 (円)
在学生保護者	75	1,990,000
同窓会・白百合女子大学関係者	9	115,000
一般篤志家	2	210,000
企業・団体	4	10,400,000
教職員	2	120,000
合 計	92	12,835,000

寄付金担当(庶務課)

電話 022-372-3254

FAX 022-375-4343

e-mail shomu@sendai-shirayuri.ac.jp

【寄付金ご応募ありがとうございました】(個人・団体順 敬称略)

青木満 浅野恵子 浅野俊和 泉澤末広 伊藤正幸 植田裕 上原政弘 上村明 内海健一 遠藤哲男 及川幾雄  
 太田仁 大谷和裕 大原政市 岡部清 小倉廣身 長田徹也 小山田京子 加藤勝美 川井敬一 川村宏人 北田宏  
 黒田稔 木立大覚 小林英夫 小宮山英一 小村毅 今野ゆう子 斎藤仁 斎藤隆博 斎藤英樹 齋藤美貴子  
 佐久間正展 櫻場敏考 佐々木清 佐藤知弘 佐藤祐豪 佐藤進 佐藤成二 佐藤伸一 三條隆義 信太裕憲  
 下田啓子 庄子浩之 神利光 菅原邦子 杉田理之 鈴木貴 鈴木雅孝 添泉徹 高橋功 高橋和恵 高橋健一  
 高橋昭一 高橋俊廣 高橋直喜 高橋政喜 高橋昌隆 高橋壮年 瀧山郁雄 竹内淳一 武部征宏 田中利美 田村麻子  
 田村真通 千葉郁夫 千葉隆政 千葉よう子 長克大 中井隆 中村庄樹 夏堀秀 早坂裕之 原田義則 藤井英充  
 保坂典雄 星野謙一 牧野美代子 三浦仁 三浦俊明 村岡玲子 村上勝弥 八鍬美浩 大和摩利子 横山治  
 吉田亜希子 吉田忠弘 和田雅人 渡辺博子 渡辺節子 湘南白百合学園タブリエ会 白百合女子大学同窓会  
 関町白百合幼稚園 仙台白百合短期大学・女子大学同窓会 (以上90名、4団体)

